

GBRCへの期待

GBRCに期待すること

公益社団法人日本コンクリート工学会
副会長 黒岩 秀介

創立60周年を迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。1965年に創立された公益社団法人日本コンクリート工学会(JCI)は、来年で60周年を迎える予定です。JCIは、コンクリートに関する研究の振興および技術の向上を図ることを目的として、各種委員会による調査・研究、学術講演会・講習会の開催、会誌・論文集の発行、コンクリート技士・主任技士・診断士の資格付与、表彰などの活動を行っています。現在、約6500名の会員を擁する学会です。貴法人とは、元理事長である森田司郎先生がほぼ同時期にJCI会長も務めており、深い関係を築いています。

GBRCの皆様は、JCIの会員として各種委員会で活躍されています。過去には、アルカリシリカ反応試験など劣化機構の研究委員会で活躍された他、1994年以降、コンクリート試験方法JIS原案作成団体として、骨材、フレッシュコンクリートおよび硬化コンクリートに関する試験方法のJISの制定改正作業をJCIは担っていますが、このコンクリート試験方法JIS原案作成委員会でも、主力メンバーとして多大な貢献をさせていただいています。さらに、会誌「コンクリート工学」には、コンクリートの耐久性に関する講座の他、多くの記事を執筆いただき、コンクリート技術の普及に尽力いただいています。JCIは全国8支部で活動しており、そのうちのひとつである近畿支部の支部長を務めていただいたこともあります。

新たな課題の研究委員会、試験方法の作成、会誌などを通じた情報発信は、高い技術力と専門性を有する会員の皆様のご協力なしでは実現できません。今後もJCIの活動にご協力いただけることを願っております。また、貴法人は公正中立の立場にあり、コンクリート材料の試験や分析、レディーミクストコンクリートのJIS認証、高強度コンクリートの大臣認定に係る性能評価、環境配慮型コンクリートなど新開発技術の証明などを通じて、コンクリート技術の進歩と普及に大いに貢献していることを認識しております。持続可能な社会の実現を目指し、益々のご発展をお祈り申し上げます。

GBRCへの期待

全国生コンクリート工業組合連合会
会長 斎藤 昇一

一般財団法人日本建築総合試験所が、創立60周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。歴代の役職員の皆様が真摯に運営に当たってこられたご努力に深く敬意を表します。

生コン業界と貴所との関りが深まったのは、平成12年6月に施行された改正建築基準法により、法第37条の建築物の基礎、主要構造物、その他安全上重要である部分に使用する指定建築材料がセメントからコンクリートに変更され、JIS A 5308に適合するもの、または国土交通大臣が指定建築材料として認定したものとなったことからでした。当時、大都市では高層建築の需要が高まっており、居室空間確保のため、高強度コンクリートの出荷要請が増えていました。生コン工場は、施主・施工者からの要請に応えるべく、大臣認定を取得するため、貴所に足を運ばせていただきました。特に貴所の性能評価では、セメント以外のコンクリート用材料の変更が可能となる場合もある点が大変有難く、性能評価業務の継続をお願い申し上げます。

次の関りは、平成16年6月の工業標準化法の改正により、平成17年10月からJISマーク表示制度が新しくなった時でした。同法に基づき、民間の登録第三者機関から新たに認証を受ける必要が生じ、多くの生コン業者が貴所と契約し、現在も全体の半数を超える工場が貴所と契約しています。また、平成12年に設立されたコンクリート現場試験技能者認定制度や、平成17年に設立された試験要員認定制度も、試験員の教育訓練や力量評価等に活用させていただいております。クラウド申請システムの運用開始など、運用上の変更に困惑することもありましたが、引き続き、認証機関として、製品認証業務の提供、試験員の認定制度の継続をお願い申し上げます。

最後に、貴所が引き続き建築の質の向上による、安全安心な国民生活の実現に寄与していただくことを期待しますとともに、貴所の今後益々のご発展と関係の皆様方のご健勝を祈念致しまして、お祝いの挨拶とさせていただきます。

GBRCへの期待

GBRC 創立60周年によせて

一般社団法人全国コンクリート製品協会
会長 石川 利勝

一般財団法人日本建築総合試験所が創立60周年を迎えられましたこと、心よりお祝いを申し上げます。

貴試験所が創立以来、一貫して試験・研究に取り組んでこられ、また、業界のニーズに応じて建築材料等の試験、JIS 認証など幅広く事業を展開されています。これらは、貴試験所関係者の皆様の努力の積み重ねの成果であり、同時にコンクリート製品業界にとっても意義深いものであり、深く敬意を表するものです。

最近、建設分野の労働力不足への解決策の一つとして、プレキャストコンクリート製品の活用による生産性向上が期待され、また、カーボンニュートラル (CN) 方針達成のため、CO₂低減効果が期待できる製品・方法採用に向けた対応が強く求められており、コンクリート製品においても様々な要請と期待が寄せられております。

これらの期待等に応えるためには、科学的データの裏付け及びより普及しやすい仕組みが重要であり、公的で第三者試験機関・認証機関としての役割を担っておられる貴試験所において、製造会社ではやり難い試験研究等に取り組まれることは、大変有意義です。特に、最近土木分野で重要になっている特性値設定における試験結果の変動等について、知見の蓄積にご尽力いただけることを期待しております。

また、利用促進の手段として、新しい製品に柔軟に対応が可能な、JIS 認証におけるプレキャストコンクリート製品Ⅱ類の認証の普及が一つの解決策になるのではないかと考えています。より認証が取得しやすい工夫について、業界としても一緒に検討できることがあるかもしれません。これらを含めて、貴試験所が権威ある公的試験機関・認証機関として一層の活動に努められ、我が国経済社会への貢献をされますよう期待します。

以上、貴試験所の60周年にあたり、今後ますますのご発展を祈念しまして、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

再生骨材コンクリートの普及活動に向けて

一般社団法人再生骨材コンクリート普及連絡協議会
会長 柴谷 啓一

再生骨材コンクリート普及連絡協議会 (ACRAC) は再生骨材コンクリートの利用促進に向けて、情報発信・調査・研究及び生産支援活動を12年間続けてきた一般社団法人です。

再生骨材の自主基準ではありますが品質監査制度を立ち上げており、ACRAC 内部の委員会が監査・審議を行い、第三者機関で認証しています。

毎年開かれるACRAC技術認定講習会は、大学教授及び専門家による講演、会員・賛助会員が取り組んでいる事業の広報、新技術・実績の紹介などがあり再生骨材コンクリートの性能、製造及び社会的位置づけを理解するためのもので、会の終了後には懇親会があり会員及び関係者の情報交換の場にもなっています。

再生骨材に関する統計調査は、碎石等動態調査が2019年で終了し、2020年についてはACRACが再生碎石・再生骨材の製造について出荷量等を調査しました。

ACRACは主に再生骨材・再生骨材コンクリートの生産に係わる事業所の団体でしたが、利用側に位置する建設会社がこの団体に入会するようにもなりました。

それでも課題はまだ残っています。再生骨材コンクリートMを建築構造物に使えるようにするために建築基準法37条告示の1446号の改正、利用を拡大促進するためのグリーン購入法特定調達品目への認定、地方公共団体標準仕様書への記載等があります。去年は第3回JIS改正委員会にACRACから5名も参加させて頂きました。

創立以来法制・基準面の隘路打開と公共事業への利用促進に向けて奔走してきましたが、大きな目的はコンクリートからコンクリートへ完全リサイクルすることによって温室効果ガスの吸収固定による地球温暖化抑制、自然環境保護、土石資源枯渇防止など総合的な環境負荷低減への貢献です。我が国の共通目標であるSDGsにおいては、都市鉱山による地産地消、産業技術の革新、生産者拡大生産者責任 (EPR) など、幅広い目標に向けてコンクリートリサイクルを推進していきます。このためには、会員の拡大を図り、品質確保・安定のためにも、多くの会員の再生コンJIS 認証取得が望まれるところであり、GBRC様にも期待するところでもあります。

GBRCへの期待

一般財団法人日本建築総合試験所に 期待するもの

一般社団法人日本砕石協会 大阪府支部
支部長 石田 光人

創立60周年を迎えられ心よりお祝い申し上げます。長きにわたり砕石業界に貢献して来られました御功績に対し御礼申し上げますとともに、今後ますますのご発展とご活躍を祈念しております。

日本砕石協会大阪府支部では骨材のアルカリシリカ反応性試験をお願いしております。

アルカリ骨材反応は1980年代ごろよりコンクリートのひび割れの原因として大きく注目されるようになり、そのためコンクリートに使用される砕石が安全(無害)なものであることを証明することが緊急の課題となり、骨材のアルカリシリカ反応性試験をお願いすることとなりました。

日本建築総合試験所で行われる骨材のアルカリシリカ反応性試験はユーザーからの信頼も厚く大阪府支部だけでなく、全国の砕石協会会員が利用しております。

また、大阪地区では砕石のJISの取得率が高く、JISの更新審査でも日本建築総合試験所にお願いしているところが多くなっております。

品質管理の担当者からは、「日本建築総合試験所の勉強会に参加し、骨材の品質問題について色々な知見を学んだ。」「骨材・コンクリートに関する勉強会を不定期でも良いのでもっと開催していただきたい。」「試験要員認定制度の講習では座学及び実務研修を含め勉強になった。」「砕石の骨材試験の実際の様子を見学できる催しを開催していただきたい。」「品質の良い骨材、悪い骨材を使用したコンクリートの品質試験で何がどう違ってくるのか実験の現場に立ち会うことで状況を見たい」等、日本建築総合試験所で実施する勉強会が役に立ったという意見やもっと実地研修や現地指導を期待する声が多く聞かれました。

これからも我々砕石業者の品質管理の知識と技能の向上のため、ご指導いただきますことをよろしく申し上げます。

防火設備を中心としたこれまでの 協力関係の歩みと、今後の期待

一般社団法人建築開口部協会
会長 平能 正三

創立60周年を迎えられたこと、心よりお喜び申し上げます。

日本建築総合試験所様が設立された1964年は、弊協会の前身である「日本カーテンウォール工業会」設立の年でもあり、日本の建築基準が大きく変わっていく時代とともに歩んできたという思いです。日本カーテンウォール工業会はその後、防火戸の通則認定運用化を目指す協議会と合併して「カーテンウォール・防火開口部協会」となり、国内建築物の開口部における通則的認定防火設備を所管する協会となりました。2011年以降では各会員企業は、個別認定取得に向けて日本建築総合試験所様をはじめとする公的試験機関に非常にタイトなスケジュールで防耐火試験実施のご協力をいただき、現在の個別認定防火設備の普及につなげていただきました。

弊協会の技術部門においては、防耐火の知見を広げる目的として、貴試験所を見学させていただいたことなどを通じて多く学ぶことができました。また、防火設備認定取得にあたり、より効率的となる要望等を会員企業から多く受けます。その中で、実現に向けた実験を行うための試験体や試験方法を貴試験所に相談し、的確なご指示とご指導をいただいて参りました。

弊協会は、2020年12月より「一般社団法人建築開口部協会」として、一般社団法人カーテンウォール・防火開口部協会と一般社団法人建築改装協会が合併し、新組織となりました。これまでの防火設備関連とメタルカーテンウォールと、改修・改装や点検・メンテナンスといった建築開口部の性能向上を目指す協会としての役割を担っております。防火設備に限らず研究、調査、そして建築基準の改定への対応を通じて、社会貢献にもつながっていきたい考えです。

日本建築総合試験所様の掲げる「建築物の質の向上」「安全性の確保」「国民生活の向上」のコンセプトは、弊協会にも通じるものであり、今後も諸課題に相互の協力体制をより強くし、活動させていただきたく存じます。

日本建築総合試験所様の今後益々の発展を心より祈念申し上げます。

GBRCへの期待

創立60周年に寄せて

一般社団法人日本壁装協会
理事長 柏瀬 功次

この度、一般財団法人日本建築総合試験所が創立60周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

貴試験所は昭和39年に創立されて以来、第三者認証機関として日本の建築に関する安全性を担保するための試験・認証等において重責を担い、建築・住宅業界の発展と建築物の質の向上に多大な貢献をされてこられました。関係者の皆様によるご尽力に深く敬意を表するものです。

貴試験所の創立から60年の間、建築基準法は震災や火災などの大きな災害の発生に対し国民の命と財産を守るための改正が行われて参りました。

その都度、様々な建築材料の新基準に対応する試験研究に努められ公正な試験・認証が行われています。

弊協会におきましては、内装材料である壁紙の業界団体として、平成12年の通則的認定制度から個別認定制度への移行、平成15年のシックハウス対策施行と建築基準法の改正、また平成17年の新JISマーク表示制度への移行などの大きな変更がございました。その際の対応に多大なるご協力をいただきましたことにこの場をお借りして感謝申し上げます。

また、高品質、高性能、環境対応、長寿命化等、消費者の要求に応えるべく新たな研究も進めていかなければならない状況にあります。

弊協会としては、製品の防火材料及びシックハウス対策における大臣認定の仕様・性能遵守、JIS認証の品質管理、リサイクル・脱炭素といった環境問題への対応等、様々な社会のニーズに対応すべく尽力して参る所存です。引き続きご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

創立60周年記念のロゴマークは「虹のかかる明るい未来」をイメージされて製作されたとお聞きしております。

建築・住宅に関わる各業界団体や消費者の方々が明るい未来へ向けて繋がっていけるよう今後も貴試験所が中心となり虹の架け橋となることを期待しています。

貴試験所の60周年記念にあたり、益々のご発展を祈念いたしましてお祝いの言葉とさせていただきます。

CLTをはじめ木質構造の発展のために

一般社団法人日本CLT協会
代表理事 中島 浩一郎

一般財団法人 日本建築総合試験所の創立60周年おめでとうございます。

職員の皆様の日々の活動が積み重なり、現在の貴試験所としての地位が確立されてきたものと推察しております。

日本CLT協会では関係企業も含め数多くの試験及び研究を貴試験所で行っていただきました。防耐火の認定試験や構造面での試験でお世話になり 最近ではCLTを防火戸として製品化する前提で、そり・変形の試験を行っていただいています。

2014年に日本CLT協会が一般社団法人になり協会内に多くのWGを設置しました。その中で木質系構造の弱点と言われている遮音性能について、その性能確認と性能向上を目的に遮音WGを立ち上げ貴試験所に大変お世話になることになりました。昨年度までに遮音試験体数は残響室内での壁試験17体、床試験35体、試験棟における床試験81体、計133体におよび、その結果、界壁の大臣認定仕様2種、床遮音性能においては重量床衝撃音遮断性能LH-45の性能を得ることが出来ました。性能確認においては残響室内の測定に加え試験所内に遮音測定用のCLT試験棟の建設にも協力いただき多くの成果が挙げられたことを感謝しています。

今後、建築の性能上の評価は単一の性能評価だけではなく、耐火性+断熱性や遮音性+構造安全性など複合された機能の評価が求められてくると考えています。このようなことが可能になれば「程々の性能」が特徴の木質材料の評価が高まるものと考えています。さらに貴試験所が古都京都や奈良に近い事もあり木造建築の長期にわたる経年変化について研究しやすい環境にあることと、木材の再利用の技術が長年行われてきたことについて研究を共にし、業界ともども新しい価値創造に繋げていくことを期待しています。

GBRCへの期待

日本建築総合試験所に期待すること

ウレタンフォーム工業会
専務理事 山本 欽一

日本建築総合試験所の創立60年、誠におめでとうございませう。

各建材業界の製品認証や性能評価を行い、建築業界の基礎となる評価試験で、日本建築の発展に寄与し、60年の歴史を紡いで来られましたことにお祝い申し上げます。

また、様々な評価と試験の基礎研究や学会発表を行われ、試験機関の進化に積極的に取り組まれてきましたことが、試験を依頼する各業界や企業から厚い信頼となっています。

私どもウレタンフォーム工業会も断熱材の硬質ポリウレタンフォームの熱伝導率や圧縮強度など機械物性だけでなく、近年火災や燃焼に関する対策要望が高まる中、防耐火に関する試験が増加しており、2015年に耐火防火試験室を池田市に開設した貴所の設備能力と様々な相談に対する対応力には心強く、安心して評価依頼をしています。

ウレタンフォーム工業会も防耐火の強化、断熱性能の高性能化、透湿などの機械物性の向上と課題は多いのですが、ウレタンフォーム工業会で策定している「品質自主管理基準」を更新しながら、硬質ポリウレタンフォームの品質向上に取り組んでおり、品質評価試験や新たな試験方法の評価の相談などに協力いただいております、心より感謝いたします。

今後の日本建築総合試験所に期待することについては、長期的なことになるのですが、GBRCビジョン2030にも公開されています。人材不足が今後懸念される状況で、まだまだ人頼りの建築業界ではあります。顧客と業務プロセスのIT化による効率化は今後更に深化されると思いますが、建築現場でのDX化に伴う新たな評価方法の確立や認証の創造による建築業界の省人化と簡略化に取り組んで欲しいと思っています。簡単なことでは無いのですが、評価機関が先端技術の活用積極的に取り組み、新たな評価方法の発信者になっていただきたいと期待しております。

GBRCへの感謝と期待

硝子繊維協会
会長 荒木 一郎

日本建築総合試験所様が本年創立60周年を迎えられたことをお慶び申し上げます。貴試験所と硝子繊維協会の関係は古くは昭和57年の鉄鋼系プレハブ住宅防耐火研究会専門委員会や、昭和58年のJIS A1420 建築用構成材の断熱性測定方法のラウンドロビネテスト等でお世話になったことに遡ると聞いております。

当協会では平成元年からほぼ毎年防火材料の品質立会を各社持ち回りで実施し、貴試験所メンバー様立会の下、基材試験や表面試験で不燃性能のチェックを行っております。平成12年に新しい不燃材料の試験法としてコーンカロリメーター試験が制定されたのを機として、平成14年からは貴試験所に当協会加盟各社のサンプルを持ち込み、平成30年まで防火材料の品質立会を行ってまいりました。直近では当協会が立ち上げた「グラスウールの不燃認定範囲検討委員会」に性能評価機関の委員として参画していただいております。防耐火分野では高断熱住宅を普及するために、以下の付加断熱壁体の防耐火構造認定を取得済、もしくは取得を予定しております。

- ・窓業外装材仕様(軸組) 準耐火 : 取得済
- ・窓業外装材仕様(軸組) 防火 : 取得済
- ・窓業外装材仕様(枠組) 準耐火 : 取得予定
- ・窓業外装材仕様(枠組) 防火 : 取得済

温熱環境分野ではグラスウール断熱材の外気側の外被に使用される穴あきフィルムの防風性能評価や、水平部材の熱性能試験室を利用して天井や屋根の断熱性能・遮熱性能の評価を、また、音環境分野ではグラスウールの吸音性能による防音性能の評価をしていただきました。

このように当協会は30年以上の長い期間にわたり貴試験所において数多くの試験・評価を通して交流させていただき、感謝の念に堪えません。

日本建築総合試験所様が、今後も各種の試験・評価業務を通して建築業界の発展に貢献されることを期待しております。

GBRCへの期待

60年の歩みを讃えて：

日本建築総合試験所の貢献と未来への展望

日本乾式遮音二重床工業会
会長 中上 裕

日本建築総合試験所様が、このたび創立60周年を迎えられたことを、心よりお祝い申し上げます。

また、創立以来、日本の建築業界に多大なる貢献を果たされてきた貴所の歩みに、深く敬意を表します。

日本乾式遮音二重床工業会は、日頃から試験・検査、研究、認証、評価業務を通じて、貴所には平素より大変お世話になっております。

弊工業会は、平成20年3月に貴所の主導で発足した「床材の床衝撃音低減性能の表現方法に関する検討委員会」に参加させていただきました。同委員会は、床仕上げ材の性能を忠実に表す表現方法を確立することによって、広く、建築設計者や施工者、消費者がその性能を正確に理解いただくための情報を提供することを目的とし、多くの関係団体と企業が参画して検討を重ねました。

その結果、客観性と統一性が確保された基準が設定され、検討結果を併せて各関連団体、関係機関への広範な周知にもご尽力をいただきました。また、新しい表現方法を機関誌などで公開いただくことで、広く普及させることにつながりました。

加えて、貴所によって策定された「床材の床衝撃音低減性能の等級表記指針」により、乾式遮音二重床の性能評価が明確に再定義され、国内建築物の床衝撃音低減性能が高次元に引き上げられました。このことは、工法としての評価の向上や新たな市場の創出にもつながりました。

今後貴所におかれましては、これまで培ってきた経験と知見を活かして、建築業界の発展にご貢献いただくことを期待するとともに、弊工業会といたしましても、先のような貴所との浅からぬ関係をさらに強化し、発展させることにより、建築物全般の遮音性能向上などをはじめとする様々な建築技術の向上を実現させ、安全で安心な居住環境の実現に寄与して参りたいと考えております。

結びに、日本建築総合試験所様の一層のご発展と所員の皆様方のご活躍、ご健勝を心より祈念申し上げます。

GBRCに期待すること

日本複合・防音床材工業会
会長 伊藤 真浩

(一財)日本建築総合試験所(以下日総試)様におかれましては、創立60周年を迎えられ、心よりお祝い申し上げます。

さて、「日本複合・防音床材工業会」の前身である「日本防音床材工業会」は1990年に設立された当時から、日総試様にはオブザーバーとして防音に関する情報や助言をいただきました。日総試様にて行った床衝撃音レベル低減量試験の結果は、床衝撃音レベル低減量 ΔL だけでなく、推定L等級(L-55、-50、-45、-40)での表示もあり、解かりやすく、その意味がエンドユーザーにまで浸透したのは日総試様の大きな成果です。その後2008年4月からは、新しい防音性能表記 ΔL 等級に変わりましたが、今でも推定L等級への読み替えて技術的な継続が図られており、顧客・現場の混乱もなく感謝申し上げます。

当工業会では、床暖房適合フローリングの試験規格制定に動いております。防音直貼りフローリングの床衝撃音レベル低減量試験に関しては今後とも日総試様にお願いすることとなりますが、当工業会よりいくつか期待したいことがございます。昨今、マンションだけでなく、低層の木造・鉄骨造アパート、戸建住宅でも階下への防音対策をされるケースが多くあります。特にアパートでは、床構造での床衝撃音対策が、品確法での性能表示項目となっていることや住宅金融支援機構での融資条件となっているため、その需要は大きいと考えます。この場合、防音床材だけでなく、階下の天井や2階床構造による防音性能向上も含まれるため、そのトータルでの防音性能を評価できる試験規格の作成を期待いたします。現状は残響室での評価ですが、階下の測定室に部材の搬入や施工ができる環境が整えば、利用度が更に上がるのではないかと思います。また、床衝撃音レベル低減量試験の受付は、現在、電話やメールでのご対応となっておりますが、web上で試験場の空き状況確認や予約ができるようになるとより短期間での申込みが可能になるのではないかと思います。

最後に、日総試様のこれまでのご功績に敬意を表すとともに、今後のさらなるご発展をお祈りいたします。